

植栽後 20 年を経過した^{わかまつ}和華松林の現況

「和華松」は、日本（和）のクロマツと台湾（華）のバビショウの F 1 雑種です。マツノザイセンチュウ病（松くい虫）の抵抗性品種でしたが、風雪害に対する弱点がありました。

和華松の京都府における現地適応性を調べるため、平成 5 年に植栽した当センター鐘打山実験林の試験地を 7 月に調査したところ、生存木は結実していました。また、昨年、林内で採取したマツ幼苗はバビショウの特徴を持つことから、和華松同士、あるいは周囲のアカマツと交配して子孫を作っているものと考えられます。このため、これらの子孫が、和華松同様松くい虫抵抗性を有し、天然で繁殖し周囲に拡大していくのか、和華松の現地適応性とともにも今後も調査を継続していきます。



結実した和華松（平成 5 年植栽）
枝が横に広がり枝葉が多い



昨年採取したマツ幼苗※
バビショウ同様、葉が長く、
三葉の葉が含まれる
（※和華松は F 1 雑種なので、
子孫は和華松にはなりません）